

2014年度 決算説明会

富士フイルムホールディングス株式会社

2015年4月30日

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。

本日はお忙しいところお集まりいただき有難うございます。

富士フイルムホールディングス株式会社 2014年度決算について、
ご説明させていただきます。

2014年度 業績 (2014年4月~2015年3月)

(単位:億円)

	2013年度	2014年度	対前年度
売上高	24,400 100.0%	24,926 100.0%	526 +2.2%
営業利益	1,408 5.8%	1,724 6.9%	316 +22.4%
税金等調整前 当期純利益	1,572 6.4%	1,971 7.9%	399 +25.4%
当社株主帰属 当期純利益	810 3.3%	1,186 4.8%	376 +46.4%
1株当たり 当社株主帰属 当期純利益	168.07円	245.94円	77.87円
ROE	4.2%	5.6%	+1.4%
為替 :米ドル	100円	110円	10円安
:ユーロ	134円	139円	5円安

*営業利益 増減要因(対前年度) 為替:+74億円、原材料:-23億円

2

2014年度は、デジタルカメラの高級機種へのシフトに伴い販売台数が減少した光学・電子映像事業とフラットパネルディスプレイ材料事業の売上が減少したものの、フォトイメージング事業、メディカルシステム事業、電子材料事業、ドキュメント事業などで売上を伸ばし、連結売上高は前年比526億円増の2兆4,926億円となりました。

営業利益は、各事業における収益性の改善や減価償却方法の変更に伴う影響などにより、前年比22.4%増の1,724億円となりました。

株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリングの連結子会社化に伴う評価益212億円を営業外収益に計上したことなどにより、税金等調整前当期純利益は、前年比25.4%増の1,971億円、当社株主帰属当期純利益は、前年比46.4%増の1,186億円と大幅に増加しました。当社株主帰属当期純利益は、過去最高となりました。

その結果、ROEは1.4ポイント増の5.6%と向上し、順調に改善が進みました。

中期経営計画 VISION2016の初年度である2014年度は順調なスタートとなりました。

2014年度 セグメント別:連結売上高/営業利益

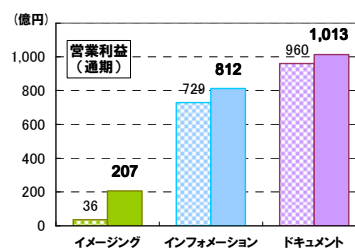
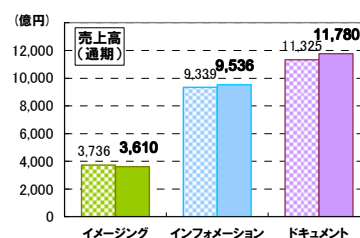
(単位:億円)

売上高	通期		対前年度	
	2013年度	2014年度	対前年度	
イメージング	3,736	3,610	-126	(-3.4%)
インフォメーション	9,339	9,536	197	(+2.1%)
ドキュメント	11,325	11,780	455	(+4.0%)
合計	24,400	24,926	526	(+2.2%)

*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益	通期		対前年度	
	2013年度	2014年度	対前年度	
イメージング	36	207	171	(5.8倍)
インフォメーション	729	812	83	(+11.3%)
ドキュメント	960	1,013	53	(+5.6%)
全社/連結調整	-317	-308	9	
合計	1,408	1,724	316	(+22.4%)



続いて、セグメント別の状況についてご説明します。

イメージング ソリューション部門の売上高は、
前年比3.4%減の3,610億円、
営業利益は対前年171億円の大幅増となり、207億円となりました。

インフォメーション ソリューション部門の売上高は、
前年比2.1%増の9,536億円、
営業利益は前年比11.3%増の812億円となりました。

ドキュメント ソリューション部門の売上高は、
前年比4.0%増の1兆1,780億円、
営業利益は前年比5.6%増の1,013億円となりました。

2014年度 セグメント別 概況

■ イメージング ソリューション

(単位:億円)			
売上高	対前年度	営業利益	前年比
3,610	-126 (-3.4%)	207	171 (5.8倍)

- ・ フォトイメージングでは、インスタントカメラ チェキ、スマートフォン用プリンター、チェキフィルムなどのインスタントフォトシステムの販売が全世界で好調に推移したことや、「Year Album」などの付加価値プリントビジネスの拡大、プリント機器の設置が進んだことで、売上が増加。
- ・ 電子映像では、コンパクトデジタルカメラのラインアップ縮小により売上減少。プレミアムデジタルカメラ「Xシリーズ」、交換レンズの販売は好調に推移。
- ・ 光学デバイスでは、テレビカメラ用レンズ等の販売は堅調に推移したものの、スマートフォン用カメラモジュールの販売が減少。

**デジタルカメラ等の売上減により減収となったものの、
インスタントフォトシステムの販売好調と
デジタルカメラの損益改善により大幅増益**

4

まずイメージング ソリューション部門についてご説明します。

フォトイメージングでは、インスタントカメラ チェキ、スマートフォン用プリンター、チェキフィルムなどのインスタントフォトシステムの販売が全世界で好調に推移したことや、「Year Album」や「シャッフルプリント」などの付加価値プリントビジネスの拡大、それに伴うプリント機器の設置が進んだことにより、売上が増加しました。

電子映像では、コンパクトデジタルカメラのラインアップ縮小により売上が減少しましたが、プレミアムデジタルカメラ「Xシリーズ」、交換レンズの販売は好調に推移しました。

光学デバイスでは、スマートフォン用カメラモジュールの販売は減少しましたが、テレビカメラ用レンズの販売などは堅調に推移しました。

この結果、光学・電子映像事業で売上は減収となりましたが、損益は改善し、イメージングソリューション部門全体では、インスタントフォトシステムの販売好調も寄与して大幅増益となりました。

2014年度 セグメント別 概況

■ インフォメーション ソリューション

売上高	対前年度	営業利益	前年比
9,536	197 (+2.1%)	812	83 (+11.3%)

(単位:億円)

- ・ メディカルシステムでは、医療ITや超音波診断装置などの販売が好調に推移し売上が増加。医薬品は国内の抗菌薬市場が低調だったもののバイオ医薬品受託製造が堅調に推移し、売上は前年並。
- ・ グラフィックシステムでは、国内での消費税増税による駆け込み需要の反動影響を受けたが海外での販売が堅調に推移し売上増加。
- ・ フラットパネルディスプレイ材料は、WVフィルムの受注減などにより売上は減少したが、テレビの大画面化の影響でプレーンタック、VA用フィルムの販売が堅調に推移。
- ・ 記録メディアは、コンピューター用磁気テープの販売が堅調に推移し売上が増加。
- ・ 産業機材では工業用X線フィルムなどの販売、新規事業での販売は堅調だったが、感圧紙の販売減などにより売上微減。電子材料では幅広い製品の販売が各地域で伸長し、売上が大幅に増加。

フラットパネルディスプレイ材料の売上は減少したが
メディカルシステム、電子材料の好調や
各事業での収益性改善などで増収増益

5

続いてインフォメーション ソリューション部門です。

ヘルスケアのうち、メディカルシステムでは、成長領域である医療ITや超音波診断装置などの販売好調により、売上が増加しました。

医薬品は、国内の抗菌薬市場が低調であったものの、バイオ医薬品受託製造が堅調に推移し、売上は前年並みとなりました。

研究開発においては、外部の研究機関等と協働するなど、着実にパイプラインの開発を推進しています。

また、再生医療事業では、昨年12月にジャパン・ティッシュ・エンジニアリング社を連結子会社化したと共に、本年3月末にはiPS細胞の開発・製造のリーディングカンパニーであるCellular Dynamics International社と、同社を株式公開買付けにより買収することについて合意しました。再生医療製品開発の加速、事業領域の拡大を進めていきます。

グラフィックシステムでは、国内で消費税増税による駆け込み需要の反動影響を受けたものの海外における販売が堅調に推移し、売上が増加しました。デジタルプリンティング機器などの拡販により売上拡大を図っています。

フラットパネルディスプレイ材料は、WVフィルムの受注減などにより売上は減少しましたが、液晶テレビの大画面化の影響でプレーンタック、VA用フィルムの販売が堅調に推移しました。

記録メディアは、「BaFe(バリウムフェライト)磁性体」などの独自技術による高容量のコンピューター用磁気テープの販売が堅調に推移し、売上が増加しました。データアーカイブ分野における一層の売上拡大を目指していきます。

産業機材では、工業用X線フィルムなどの販売が堅調だったことに加えて、太陽電池用バックシートなど新規事業での販売も増加しましたが、感圧紙の総需要減などの影響により、売上は微減となりました。電子材料では先端フォトレジストやCMPスラリーなど幅広い製品が各地域で好調だったことにより、売上が大幅に増加しました。

インフォメーション ソリューション部門は、フラットパネルディスプレイ材料事業の売上は減少したものの、メディカルシステム、電子材料の好調や各事業での収益性改善などにより、増収増益となりました。

2014年度 セグメント別 概況

■ ドキュメント ソリューション

(単位:億円)			
売上高	対前年度	営業利益	前年比
11,780	455 (+4.0%)	1,013	53 (+5.6%)

・国内、アジア・オセアニア地域及び米国ゼロックス社向け輸出のいずれも売上が増加。

- オフィスプロダクトは、アジア・オセアニア地域で売上が増加し、全体で増収。
- オフィスプリンターは、アジア・オセアニア地域及び米国ゼロックス社向け輸出の売上が増加し、増収。
- プロダクションサービスは、国内はやや減収となったが、アジア・オセアニア地域で売上が増加し、全体としては前年並み。
- グローバルサービスは、富士ゼロックスがサービスを提供する国内及びアジア・オセアニア地域ともに増収。

・営業利益は、売上増に伴う粗利の増加により増益。

**全ての地域において販売が堅調に推移し、
売上増に伴う粗利の増加により、増収増益**

ドキュメント ソリューション部門については、

国内、アジア・オセアニア地域及び米国ゼロックス社向け輸出のいずれも売上が増加しました。

オフィスプロダクトは、A3カラーローエンドモデル「DocuCentre SC2020」の販売が大きく伸びたアジア・オセアニア地域で売上が増加し、全体で増収となりました。

オフィスプリンターは、アジア・オセアニア地域及び米国ゼロックス社向け輸出の売上が増加し増収となりました。

プロダクションサービスは、国内はやや減収となりましたが、アジア・オセアニア地域で売上が増加し、全体としては前年並みで着地しました。

グローバルサービスは、富士ゼロックスがサービスを提供する国内及びアジア・オセアニア地域ともに売上が大きく増加しました。

このように全ての地域において販売が堅調に推移したことによる売上増に伴う粗利の増加とともに、継続した原価改善やSGA比率低減に向けた施策が寄与し、増収増益となりました。

連結貸借対照表

					(単位:億円)				
	12年度末	13年度末	14年度末	対13年度末		12年度末	13年度末	14年度末	対13年度末
現金及び現金同等物	4,454	6,046	7,269	1,223	長短社債及び借入金	3,583	3,597	3,497	-100
受取債権	5,889	6,368	6,810	442	支払債務	2,510	2,659	2,690	31
棚卸資産	3,999	3,637	3,725	88	その他流動固定負債	4,255	4,032	4,705	673
有価証券 その他流動資産	1,271	1,566	1,628	62	負債計	10,348	10,288	10,892	604
流動資産計	15,613	17,617	19,432	1,815	株主資本計	18,689	20,206	22,327	2,121
有形固定資産	5,461	5,303	5,274	-29	非支配持分	1,559	1,776	2,347	571
営業権	4,122	4,231	5,050	819	純資産計	20,248	21,982	24,674	2,692
投資有価証券 その他資産	5,400	5,119	5,810	691	負債・純資産合計	30,596	32,270	35,566	3,296
固定資産計	14,983	14,653	16,134	1,481	(単位:円)				
資産合計	30,596	32,270	35,566	3,296	期末日 為替レート	12年度末	13年度末	14年度末	対13年度末
					米ドル	94	103	120	17円安
					ユーロ	121	142	130	12円高

7

次に、バランスシートについてご説明します。

2015年3月末時点の資産は、現金及び現金同等物の増加などにより、2014年3月末時点と比べ、3,296億円増の3兆5,566億円となりました。

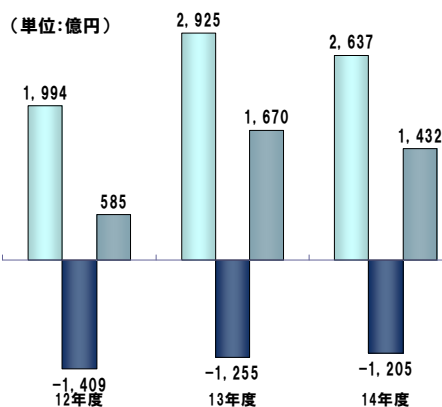
負債は、繰延税金負債の増加などにより、604億円増の1兆892億円となりました。

株主資本は、2,121億円増加し2兆2,327億円となりました。

流動比率は、前期末に比べ16.9ポイント増の312.3%、負債比率は2.1ポイント減の48.8%、株主資本比率は0.2ポイント増の62.8%となり、資産の流動性及び資本構成の安定性をともに維持しております。

キャッシュ・フロー

- 営業活動によるキャッシュ・フロー
- 投資活動によるキャッシュ・フロー
- フリー・キャッシュ・フロー



(単位:億円)

	12年度	13年度	14年度
当期純利益	712	1,021	1,371
減価償却費	1,415	1,414	1,229
受取債権の増(-)減(+)	90	-243	-114
棚卸資産の増(-)減(+)	118	580	89
営業債務の増(+)-減(-)	-241	72	-143
未払法人税等他負債の増(+)-減(-)	-319	-29	111
その他	219	110	94
営業活動によるCF	1,994	2,925	2,637
設備投資	-899	-703	-569
ソフトウェアの購入	-202	-246	-266
有価証券・投資有価証券等の売却・購入	133	-56	12
その他	-441	-250	-382
投資活動によるCF	-1,409	-1,255	-1,205
フリー・キャッシュ・フロー	585	1,670	1,432
営業活動によるCF+設備投資	1,095	2,222	2,068

8

続いて、キャッシュ・フローについてご説明します。

営業活動によるキャッシュ・フローは、当期純利益の増加などにより、2,637億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、設備投資に伴う固定資産の購入などにより、1,205億円の支出となりました。

この結果、フリー・キャッシュ・フローは、1,432億円のプラスとなりました。

以上で、2014年度決算の説明とさせていただきます。

2014年度 決算説明会

2015年度 業績予想

2015年4月30日

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。

続いて、2015年度の業績予想についてご説明させていただきます。

2015年度 連結業績予想 (2015年4月30日時点)

	2014年度	2015年度 (予想)	対前年度	(単位:億円) 2016年度目標 (VISION2016)
売上高	24,926 100.0%	25,800 100.0%	874 +3.5%	26,300 100%
営業利益	1,724 6.9%	1,900 7.4%	176 +10.2%	2,200 8.4%
税金等調整前 当期純利益	1,971 7.9%	1,900 7.4%	-71 -3.6%	—
当社株主帰属 当期純利益	1,186 4.8%	1,200 4.7%	14 +1.2%	1,200 4.6%
1株当たり 当社株主帰属 当期純利益	245.94円	248.85円	2.91円	—
ROE	5.6%	5%台半ば	—	7.0%
為替 :米ドル	110円	120円	10円安	100円
:ユーロ	139円	130円	9円高	135円
銀価格(/kg)	64,000円	65,000円	+1,000円	76000円

*2015年度 営業利益 為替感応度 米ドル:8億円、ユーロ:8億円

10

売上高は、中期経営計画の戦略を引き続き推進して重点事業中心に売上を伸ばし、前年比3.5%増の2兆5,800億円を予想しております。

営業利益については、売上成長に加え各事業での収益性の改善等により、前年比10.2%増の1,900億円を予想しております。

税金等調整前当期純利益は、前年比3.6%減の1,900億円、
当社株主帰属当期純利益は、最高益更新となる前年比1.2%増の1,200億円を予想しております。

ROEは、前年並みとなる5%台半ばを想定しております。ROE7%達成に向け、引き続きROEを向上させていきます。

なお、2015年度の為替レートはドル円を120円、ユーロ円を130円で想定しております。

2015年度 セグメント別業績予想 (2015年4月30日時点)

売上高	2014年度	2015年度 (予想)	対前年度	2016年度目標 (VISION2016)	(単位:億円)
イメージング	3,610	3,550	-60	3,600	
インフォメーション	9,536	10,050	514	10,300	
ドキュメント	11,780	12,200	420	12,400	
合計	24,926	25,800	874	26,300	*セグメント間取引消去後

営業利益	2014年度	2015年度 (予想)	対前年度	2016年度目標 (VISION2016)	(単位:億円)
イメージング	207	230	23	250	
インフォメーション	812	950	138	1,050	
ドキュメント	1,013	1,050	37	1,250	
全社/連結調整	-308	-330	-22	-350	
合計	1,724	1,900	176	2,200	

こちらはセグメント別の売上高、営業利益の業績予想です。

2015年度については、中期経営計画 VISION2016の戦略を引き続き推進していきますが、
中でも今年度のポイントとなる点について、セグメント別にご説明いたします。

2015年度業績予想のポイント ~中期経営計画 VISION2016達成に向けて~

イメージング

インスタントカメラ、付加価値プリントなどのさらなる拡販によりフォトイメージングで収益を拡大
光学・電子映像で高付加価値領域に注力し収益性を向上

インフォメーション

メディカルシステムの医療IT・内視鏡・超音波・IVD(体外診断)で売上2ケタ%成長
医薬品はバイオ医薬品受託製造が牽引し、売上2ケタ%成長
FPD材料は既存ビジネスの優位性を維持しつつ、新製品の拡販により安定した収益を確保

ドキュメント

新興国市場でのさらなる販売ボリュームの拡大、サービス事業の拡大、ソリューション強化による売上成長に加え、一層のコスト・経費削減により収益性を向上

12

イメージング ソリューションにおいては、

フォトイメージングにおいて好調なチェキや付加価値プリントのさらなる拡販により収益を拡大するとともに、

光学・電子映像においてミラーレスカメラ、交換レンズ、放送用レンズなど付加価値の高い事業領域への注力により収益性を向上させ、全体で増益を見込みます。

インフォメーション ソリューションにおいては、

メディカルシステムで医療IT、内視鏡、超音波および当社の技術力を生かせる体外診断事業において2ケタ%の売上成長を図ります。

医薬品においては、バイオ医薬品受託製造事業が牽引し、売上の2ケタ%の成長を目指します。

フラットパネルディスプレイ材料ではTV向け、中小型ディスプレイ向けフィルムを拡販すると共に、タッチパネルやバックライト関連など新規分野への展開を図り、安定した収益を確保していきます。

その他グラフィックシステム、記録メディア、産業機材、電子材料においても引き続き収益性を向上させていきます。

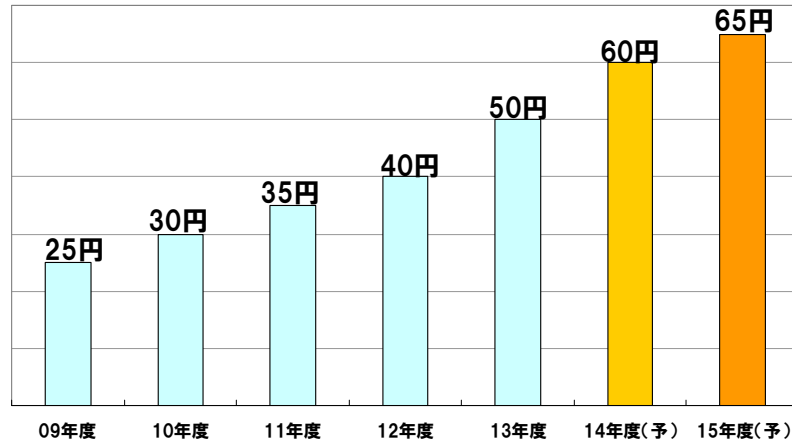
ドキュメント ソリューションでは、

新興国市場向けの新製品によるさらなる販売ボリュームの拡大、グローバルサービス、プロダクションサービスのサービス事業の拡大、ソリューションの強化による売上成長とともに、コスト低減、経費削減を一層推進していくことでさらに収益性を向上させていきます。

株主還元

■配当金

2015年度の配当金は、6期連続増配となる対前年5円増配の65円/株を予定



最後に株主還元についてご説明いたします。

配当金については、2014年度は対前年10円の増配となる、1株当たり60円を予定しています。

また、1月末に発表した通り、取得株式数1,600万株、取得価額500億円を上限に、7月末までに自社株買いを実施する予定です。

また、2015年度の年間配当金は、6期連続増配となる対前年5円増配の1株当たり65円を予定しています。

自社株買いについては、中期経営計画に基づき継続して実施していく予定です。

以上、2014年度決算および2015年度業績予想についてご説明いたしました。

ご静聴いただき、ありがとうございました。

FUJIFILM

Value from Innovation

富士フィルムは、生み出しつづけます。

人々の心が躍る革新的な「技術」「製品」「サービス」を。

明日のビジネスや生活の可能性を拡げるチカラになるために。

富士フィルム ホールディングス株式会社

経営企画部 コーポレートコミュニケーション室

<http://www.fujifilmholdings.com>

2014年度 決算説明会

参考資料

4Q/通期 業績

(単位:億円)

	4Q			通期		
	2013年度	2014年度	対前年度	2013年度	2014年度	対前年度
売上高	6,656 100.0%	6,774 100.0%	118 +1.8%	24,400 100.0%	24,926 100.0%	526 +2.2%
営業利益	412 6.2%	480 7.1%	68 +16.5%	1,408 5.8%	1,724 6.9%	316 +22.4%
税金等調整前 当期純利益	430 6.5%	439 6.5%	9 +2.2%	1,572 6.4%	1,971 7.9%	399 +25.4%
当社株主帰属 当期純利益	185 2.8%	247 3.6%	62 +33.4%	810 3.3%	1,186 4.8%	376 +46.4%
為替 :米ドル :ユーロ	103円 141円	119円 134円	16円安 7円高	100円 134円	110円 139円	10円安 5円安

*営業利益 増減要因(通期 対前年度) 為替: +74億円、原材料: -23億円

16

<当スライドは配付資料です>

4Q/通期 業績

(単位:億円)

売上高	4Q			通期		
	2013年度	2014年度	対前年度	2013年度	2014年度	対前年度
イメージング	955	845	-110 (-11.6%)	3,736	3,610	-126 (-3.4%)
インフォメーション	2,628	2,704	76 (+2.9%)	9,339	9,536	197 (+2.1%)
ドキュメント	3,073	3,225	152 (+5.0%)	11,325	11,780	455 (+4.0%)
合計	6,656	6,774	118 (+1.8%)	24,400	24,926	526 (+2.2%)

*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	4Q			通期		
	2013年度	2014年度	対前年度	2013年度	2014年度	対前年度
イメージング	51 [5.2%]	33 [3.9%]	-18 (-34.2%)	36 [1.0%]	207 [5.7%]	171 (5.8倍)
インフォメーション	194 [7.4%]	248 [9.1%]	54 (+27.2%)	729 [7.8%]	812 [8.5%]	83 (+11.3%)
ドキュメント	251 [8.1%]	281 [8.6%]	30 (+12.1%)	960 [8.4%]	1,013 [8.5%]	53 (+5.6%)
全社/連結調整	-84	-82	2	-317	-308	9
合計	412 [6.2%]	480 [7.1%]	68 (+16.5%)	1,408 [5.8%]	1,724 [6.9%]	316 (+22.4%)

17

<当スライドは配付資料です>

4Q(3ヶ月) セグメント別 ハイライト

■ イメージング ソリューション

- インスタントフォトシステムの販売が引き続き好調で、フォトイメージングの売上が増加。
- コンパクトデジタルカメラのラインアップ縮小により販売台数は前年同期比で大幅に減少したものの、高級機種「Xシリーズ」の販売は新製品の出荷もあり好調に推移。
- 光学デバイスはスマートフォン用カメラモジュールの販売が減少。

■ インフォメーション ソリューション

- メディカルシステムでは特に超音波画像診断装置の売上が海外を中心に好調に推移。医薬品は国内の抗菌薬市場低迷の中、主力製品が健闘。バイオ医薬品受託製造の受注も堅調。
- フラットパネルディスプレイ材料は、液晶テレビ向けにVA用フィルム、IPS用フィルムの販売が堅調。
- 産業機材は、「エクスクリア」、太陽電池用バックシートなどの新規製品の受注が増加し、売上が増加。電子材料は全体的に継続して販売が好調に推移。

■ ドキュメント ソリューション

- 売上は、オフィスプリンター、オフィスプロダクト、プロダクションサービス、グローバルサービスの全ての領域で増収。
- 営業利益は、売上高の増加に伴う粗利の増加により増益。

<当スライドは配付資料です>

4Q/通期 業績

■ イメージング ソリューション

(単位:億円)

売上高	4Q			通期		
	2013年度	2014年度	対前年度	2013年度	2014年度	対前年度
フォトイメージング	523	579	56 (+10.6%)	2,157	2,406	249 (+11.5%)
電子映像	231	148	-83 (-35.8%)	861	697	-164 (-19.0%)
光学デバイス	201	118	-83 (-41.4%)	718	507	-211 (-29.3%)
光学・電子映像	432	266	-166 (-38.4%)	1,579	1,204	-375 (-23.7%)
合計	955	845	-110 (-11.6%)	3,736	3,610	-126 (-3.4%)

*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	4Q			通期		
	2013年度	2014年度	対前年度	2013年度	2014年度	対前年度
イメージング	51 [5.2%]	33 [3.9%]	-18 (-34.2%)	36 [1.0%]	207 [5.7%]	171 (5.8倍)

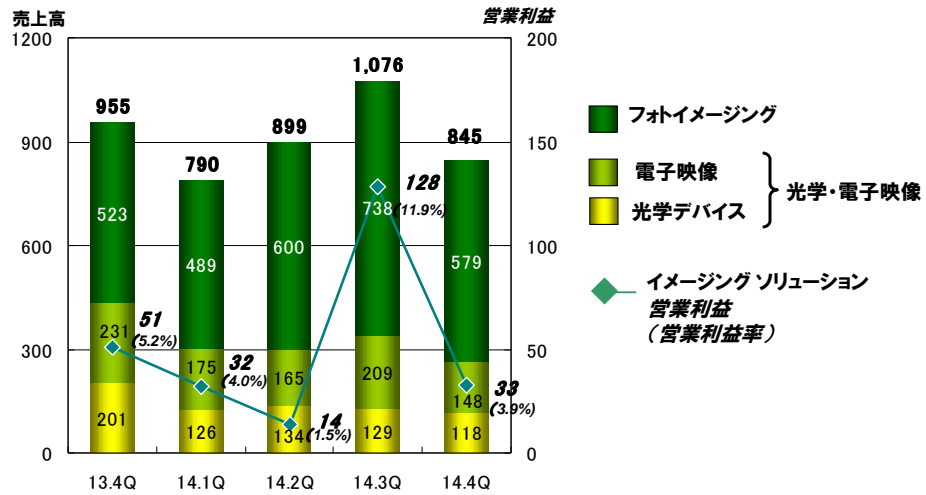
19

<当スライドは配付資料です>

セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

■ イメージング ソリューション

(単位:億円)



<当スライドは配付資料です>

4Q/通期 業績

■ インフォメーション ソリューション

(単位:億円)

売上高	4Q			通期		
	2013年度	2014年度	対前年度	2013年度	2014年度	対前年度
ヘルスケア	1,222	1,247	25 (+2.1%)	3,820	3,943	123 (+3.2%)
グラフィックシステム	757	760	3 (+0.5%)	2,800	2,836	36 (+1.3%)
フラットパネル ディスプレイ材料	292	306	14 (+4.6%)	1,382	1,288	-94 (-6.8%)
記録メディア	134	125	-9 (-6.3%)	465	482	17 (+3.7%)
産業機材/電子材料他	223	266	43 (+19.1%)	872	987	115 (+13.2%)
合計	2,628	2,704	76 (+2.9%)	9,339	9,536	197 (+2.1%)

*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	4Q			通期		
	2013年度	2014年度	対前年度	2013年度	2014年度	対前年度
インフォメーション	194 [7.4%]	248 [9.1%]	54 (+27.2%)	729 [7.8%]	812 [8.5%]	83 (+11.3%)

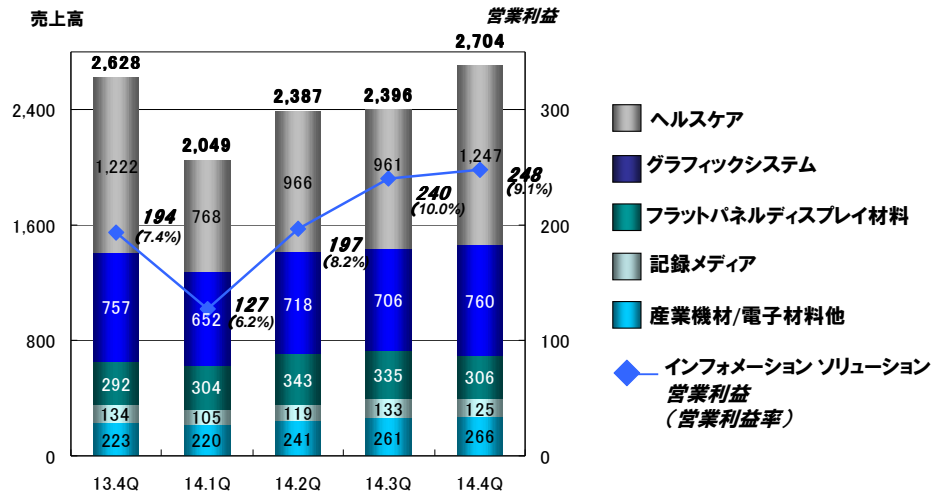
21

<当スライドは配付資料です>

セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

■ インフォメーション ソリューション

(単位:億円)



22

<当スライドは配付資料です>

4Q/通期 業績

■ ドキュメント ソリューション

(単位:億円)

売上高	4Q			通期		
	2013年度	2014年度	対前年度	2013年度	2014年度	対前年度
オフィスプロダクト	1,313	1,333	20 (+1.5%)	5,149	5,203	54 (+1.0%)
オフィスプリンター	506	561	55 (+10.9%)	1,839	1,912	73 (+4.0%)
プロダクションサービス	427	435	8 (+1.9%)	1,555	1,567	12 (+0.8%)
グローバルサービス	446	556	110 (+24.7%)	1,541	1,866	325 (+21.1%)
その他	381	340	-41 (-10.7%)	1,241	1,232	-9 (-0.7%)
合計	3,073	3,225	152 (+5.0%)	11,325	11,780	455 (+4.0%)

*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	4Q			通期		
	2013年度	2014年度	対前年度	2013年度	2014年度	対前年度
ドキュメント	251 [8.1%]	281 [8.6%]	30 (+12.1%)	960 [8.4%]	1,013 [8.5%]	53 (+5.6%)

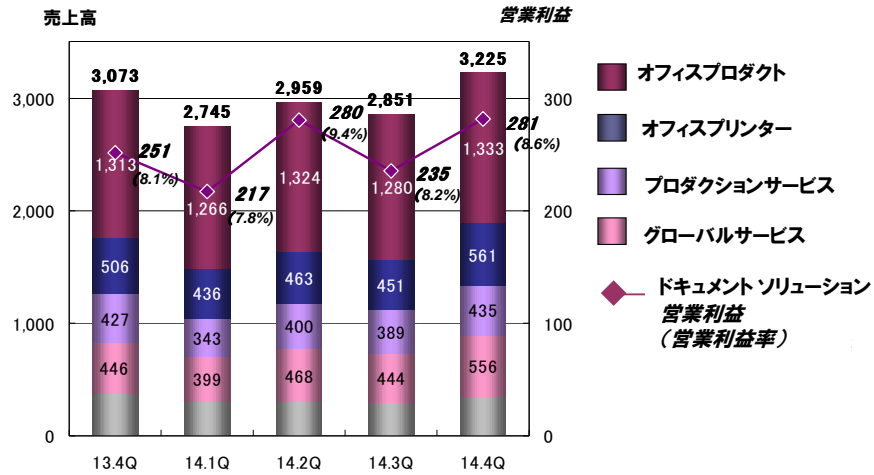
23

<当スライドは配付資料です>

セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

■ ドキュメント ソリューション

(単位: 億円)



<当スライドは配付資料です>

国内・海外別連結売上高

(単位:億円)

	2013年度		2014年度		対前年度
	構成比 (%)		構成比 (%)		
日本	42.5%	10,369	41.2%	10,265	-104 (-1.0%)
米州	17.9%	4,367	18.7%	4,665	298 (+6.8%)
欧州	12.0%	2,928	11.6%	2,893	-35 (-1.2%)
内、中国	10.6%	2,572	11.0%	2,747	175 (+6.8%)
アジア他	27.6%	6,736	28.5%	7,103	367 (+5.4%)
海外	57.5%	14,031	58.8%	14,661	630 (+4.5%)
合計	100.0%	24,400	100.0%	24,926	526 (+2.2%)

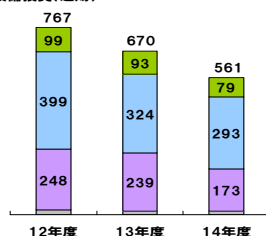
25

<当スライドは配付資料です>

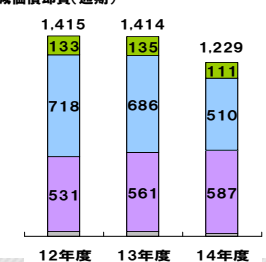
設備投資、減価償却費

- イメージングソリューション
- インフォメーションソリューション
- ドキュメントソリューション
- コーポレート

設備投資(通期)



減価償却費(通期)



(単位:億円)

年度	4Q			通期			2015 (予想)
	2012	2013	2014	2012	2013	2014	
イメージング	28	18	29	99	93	79	-
インフォメーション	91	106	99	399	324	293	-
ドキュメント	110	49	35	248	239	173	-
コーポレート	7	3	5	21	14	16	-
設備投資 ※	236	176	168	767	670	561	800
イメージング	45	41	32	133	135	111	-
インフォメーション	200	178	130	718	686	510	-
ドキュメント	137	144	155	531	561	587	-
コーポレート	7	8	5	33	32	21	-
減価償却費	389	371	322	1,415	1,414	1,229	1,300
有形固定資産の 減価償却費 ※	269	254	173	934	907	651	750

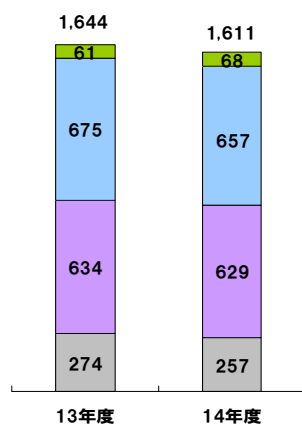
※ ドキュメントソリューション部門等のレンタル機器を除く。

<当スライドは配付資料です>

研究開発費、販売費および一般管理費

- イメージングソリューション
- インフォメーションソリューション
- ドキュメントソリューション
- コーポレート

研究開発費(通期)



(単位:億円)

年度	4Q		通期		
	2013	2014	2013	2014	2015 (予想)
イメージング	2	19	61	68	-
インフォメーション	178	179	675	657	-
ドキュメント	159	154	634	629	-
コーポレート	77	69	274	257	-
研究開発費	416	421	1,644	1,611	1,650
<売上高比>	6.3%	6.2%	6.7%	6.5%	6.4%
販売費及び 一般管理費	1,560	1,681	6,159	6,280	-
<売上高比>	23.4%	24.8%	25.2%	25.2%	-

27

<当スライドは配付資料です>

為替、原材料価格、人員

為替

(単位:円)

	2013年度					2014年度				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
米ドル	99	99	101	103	100	102	104	115	119	110
ユーロ	129	131	137	141	134	140	138	143	134	139

原材料価格 (平均)

(単位:千円/kg)

	2013年度					2014年度				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
銀	78	68	68	67	71	65	67	62	64	64

人員

(単位:人)

	2014.3末	2014.6末	2014.9末	2014.12末	2015.3末
連結	78,595	79,192	80,590	80,248	79,235

<当スライドは配付資料です>

パイプライン

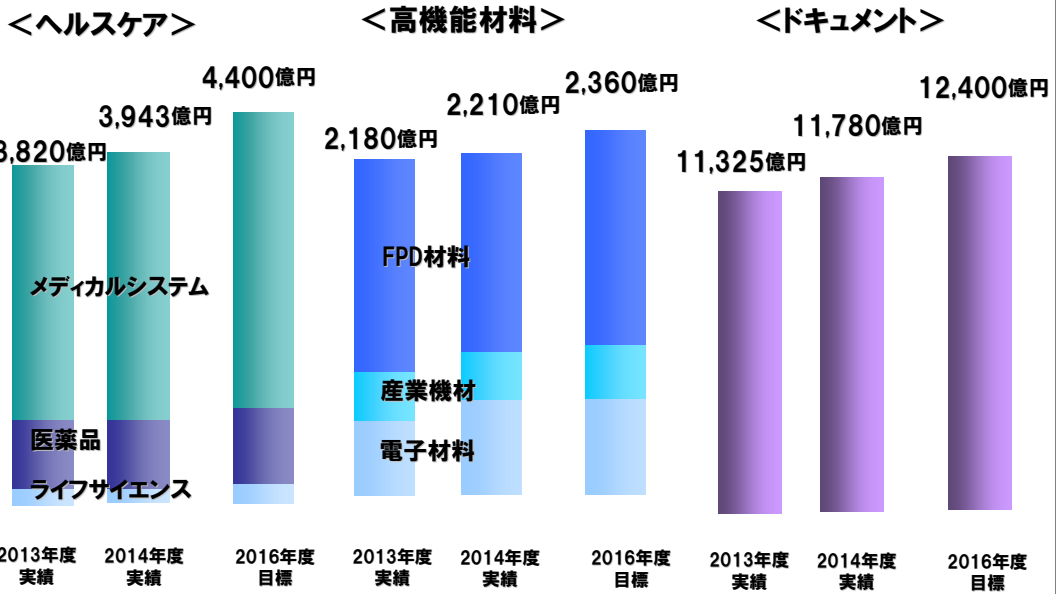
開発番号	薬効・適応症	剤形	地域	開発段階	備考
T-705	抗インフルエンザウイルス剤	経口	日本	承認済み	2014年3月承認(アビガン錠 [®])
			米国	Ph III実施中	国防省の助成金により臨床試験実施中
T-3811	キノロン系合成抗菌剤	経口	中国	承認申請中	国内はジェニナック錠として上市済み
T-2307	抗真菌剤	注射	米国	Ph I 終了	
T-817MA	アルツハイマー型認知症治療剤	経口	米国	Ph II 実施中	Alzheimer's Disease Cooperative Study (ADCS) と臨床試験実施中
			日本	Ph II 実施中	京都大学iPS細胞研究所との共同研究によりバイオマーカーの探索・特定を目指す
T-4288	マクロライド系抗菌剤	経口	日本	Ph II 実施中	
バイオ ITK-1	去勢抵抗性前立腺がん治療剤	注射	日本	Ph III 実施中	
FF-10501	再発・難治性骨髄異形性症候群治療剤	経口	日本	Ph I 実施中	
			米国	Ph I 実施中	
バイオ FF-21101	進行・再発非小細胞肺癌/脾がん治療剤 (Armed抗体)	注射	米/欧/日	非臨床試験実施中	MDアンダーソンがんセンター(米国)と臨床開発推進中
FF-10502	進行・再発脾がん/卵巣がん治療剤	注射	米/欧/日	非臨床試験実施中	
F-1311	前立腺がん診断薬(放射性医薬品)		日本	Ph I 実施中	

※持分法適用会社の協和キリン富士フィルムバイオリジクスのFKB327(アダリムマブバイオシミラー)は、米国、その他でPh III 実施中。
FKB238(ヘバシマブバイオシミラー)は、欧州でPh I 実施中。

29

<当スライドは配付資料です>

中期経営計画 VISION2016 進捗



<当スライドは配付資料です>

参考情報

富士フィルムホールディングス 株主・投資家情報

<http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/index.html>

富士フィルムホールディングス アニュアルレポート2014

http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/annual_reports/2014/index.html

IRイベント資料

http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/ir_events/business_presentations/index.html

・事業説明会資料

- 2014年 11月 医薬品事業説明会
- 2015年 2月 ドキュメント事業説明会

・カンファレンス資料

- 2015年 3月 大和インベストメントカンファレンス東京2015

富士フィルムってどんな会社？

<http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/individual/guidance/index.html>

31

<当スライドは配付資料です>

FUJIFILM

Value from Innovation

富士フィルムは、生み出しつづけます。

人々の心が躍る革新的な「技術」「製品」「サービス」を。

明日のビジネスや生活の可能性を拡げるチカラになるために。

富士フィルム ホールディングス株式会社

経営企画部 コーポレートコミュニケーション室

<http://www.fujifilmholdings.com>